

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-169667

(P2006-169667A)

(43) 公開日 平成18年6月29日(2006.6.29)

(51) Int. Cl.		F I		テーマコード (参考)
A 4 1 G	1/00	(2006.01)	A 4 1 G	1/00
B 4 1 M	3/06	(2006.01)	B 4 1 M	3/06
				V
				2 H 1 1 3

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号	特願2004-363765 (P2004-363765)	(71) 出願人	504462799
(22) 出願日	平成16年12月16日 (2004.12.16)		株式会社エビスサンプル
			静岡県静岡市西脇 1 6 5 - 1
		(74) 代理人	100109966
			弁理士 伊藤 哲夫
		(72) 発明者	市村 清
			静岡県静岡市中原 5 1 4 - 6
		F ターム (参考)	2H113 AA04 AA06 BA10 BB02 BB06
			BB22 CA05

(54) 【発明の名称】 疑似葉の製造方法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 基材の下地として黄色を着色し、該黄色を葉脈として表現し、他の表皮部分を緑とすることにより、疑似葉を天然の葉に限りなく近づける。

【解決手段】 下記の工程よりなる疑似葉の製造方法。

1. 絹布、不織布、合成繊維製布或いは紙片等の可撓性基材を黄色地に着色。2. 天然葉と相似形となるように外形を定め、葉脈部分を除いた表皮を天然葉に近い緑色となるように調色されたインクをシルクスクリーン印刷により着色。3. 上記基材に印刷された疑似葉をその外形に沿って切断する。4. 切断された疑似葉の先を取着具で把持し、該疑似葉を吊り下げ可能とする。5. 上記吊り下げ状態とされた疑似葉を透明な乾燥硬化性樹脂の液体が貯留されたタンク内にどぶ漬けし、その後吊り上げる。6. 吊り上げられた疑似葉を吊り下げた状態のままで乾燥させる。7. 乾燥後、殺菌処理を行なう。

【選択図】 なし

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記の工程よりなる疑似葉の製造方法。

1. 絹布、不織布、合成繊維製布或いは紙片等の可撓性を有する基材を選択し、該基材を黄色地に着色する。
2. 天然葉と相似形となるように外形を定め、葉脈となる部分を除いた表皮を天然葉に近い緑色となるように調色されたインクをシルクスクリーン印刷により着色する。
3. 上記基材に印刷された疑似葉をその外形に沿って切断する。
4. 切断された疑似葉の先端を別途取着具により把持し、該疑似葉を吊り下げ可能状態とする。
5. 上記吊り下げ状態とされた疑似葉を透明な乾燥硬化性樹脂の液体が貯留されたタンク内にどぶ漬けし、その後吊り上げる。
6. 吊り上げられた疑似葉を吊り下げた状態のままで乾燥させる。
7. 乾燥後、殺菌処理を行なう。

10

【請求項 2】

下記の工程よりなる疑似葉の製造方法。

1. 絹布、不織布、合成繊維製布或いは紙片等の可撓性を有する基材を選択し、該基材を黄色地に着色する。
2. 天然葉と相似形となるように外形を定め、葉脈となる部分を除いた表皮を天然葉に近い緑色となるように調色されたインクをシルクスクリーン印刷により着色する。
3. 基材の端部を別途取着具により把持し、該基材を吊り下げ可能状態とする。
4. 上記吊り下げ状態とされた基材を透明な乾燥硬化性樹脂の液体が貯留されたタンク内にどぶ漬けし、その後吊り上げる。
5. 吊り上げられた基材を吊り下げた状態のままで乾燥させる。
6. 乾燥後、殺菌処理を行なう。
7. 上記基材に印刷された疑似葉をその外形に沿って切断する。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

30

本発明は、基材上の表裏面に天然葉に似せた印刷を施すことにより耐久性のある包装材料を得ることを可能とした疑似葉の製造方法を提供するものである。

【背景技術】

【0002】

従来疑似葉は、植栽された状態の植木や造花等の疑似木や疑似枝とともに植物の一部を構成するものとして採用されている。また、弁当の惣菜間の仕切材や寿司の敷物等として疑似葉が使用されている。

【特許文献 1】特開 2003-145032 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

40

【0003】

上記従来疑似葉は、合成樹脂片や布片に予め着色されているものをプレスし、裁断したものであり、葉脈は凹凸のみによって表現され、葉脈を除いた葉の色と葉脈の色との差が表現されておらず、天然葉との差異が目立っていた。これは疑似葉における裏側も同様であった。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本発明は、上記欠点を解決したもので、下記の工程よりなる疑似葉の製造方法の特徴とする。

1. 絹布、不織布、合成繊維製布或いは紙片等の可撓性を有する基材を選択し、該基材を

50

黄色地に着色する。

2. 天然葉と相似形となるように外形を定め、葉脈となる部分を除いた表皮を天然葉に近い緑色となるように調色されたインクをシルクスクリーン印刷により着色する。

3. 上記基材に印刷された疑似葉をその外形に沿って切断する。

4. 切断された疑似葉の先端を別途取着具により把持し、該疑似葉を吊り下げ可能状態とする。

5. 上記吊り下げ状態とされた疑似葉を透明な乾燥硬化性樹脂の液体が貯留されたタンク内にどぶ漬けし、その後吊り上げる。

6. 吊り上げられた疑似葉を吊り下げた状態のままで乾燥させる。

7. 乾燥後、殺菌処理を行なう。

10

【0005】

また、下記の工程よりなる疑似葉の製造方法の特徴とする。

1. 絹布、不織布、合成繊維製布或いは紙片等の可撓性を有する基材を選択し、該基材を黄色地に着色する。

2. 天然葉と相似形となるように外形を定め、葉脈となる部分を除いた表皮を天然葉に近い緑色となるように調色されたインクをシルクスクリーン印刷により着色する。

3. 基材の端部を別途取着具により把持し、該基材を吊り下げ可能状態とする。

4. 上記吊り下げ状態とされた基材を透明な乾燥硬化性樹脂の液体が貯留されたタンク内にどぶ漬けし、その後吊り上げる。

5. 吊り上げられた基材を吊り下げた状態のままで乾燥させる。

20

6. 乾燥後、殺菌処理を行なう。

7. 上記基材に印刷された疑似葉をその外形に沿って切断する。

【発明の効果】

【0006】

基材の下地として黄色を着色し、該黄色を葉脈として表現し、他の表皮部分を緑とすることにより、疑似葉として天然の葉に限りなく近づけることが可能となった。

【0007】

表裏面に天然葉に似せた表現となる印刷を施すことが可能となり、表裏両面を利用できるようになった。

【0008】

30

表裏面が合成樹脂によりコーティングされているので、つやを表現できるとともに疑似葉として耐久性、耐水性に優れたものを製造できるようになった。

【0009】

更に、最終工程に殺菌工程を設けたので、食品と接する材料、食品容器等を含め様々な包装材料として安全に利用できるものを提供できるようになった。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

本発明は、上記欠点を解決したもので、天然葉に限りなく似せた疑似葉の製造方法を提供するもので、以下に実施例に基づいて説明する。

【実施例】

40

【0011】

絹布、不織布、合成繊維製布或いは紙片等の可撓性を有する材料を基材1とする。好ましくは絹布とする。該基材1を黄色に染色或いは予め着色されたものを基材として選択し、当該色を地色とする。

【0012】

葉には、その全体形状を線形、卵形、倒卵形、菱形、へら形、披針形、楕円形、表楕円形等の様々なものがあり、先端の形状も尾状のものや尖ったもの等、様々なものがあり、基部も楔形やハート形等、様々な形状のものがある。また、葉のへりも滑らかなものから鋸歯状のもの等、様々なものがある。

【0013】

50

また、葉の表裏面に露出する線状の葉脈にも多種類あり、主として主脈を1本とし、これから左右にいくつかの側脈が分かれた羽状脈や、3本以上の主脈が掌状に走る掌状脈、或いはこれらの中間型のもの等がある。

また、細い葉脈にあっては外観上、全ての葉脈が葉身を通じてほぼ平行し先端において漸次集まる平行脈、主脈から枝分かれを繰り返した細脈が細かい網目を作る網状脈、二股分枝を繰り返す二股脈等がある。

【0014】

本実施例は、上記葉の全体形状、葉の先端、基部、へり及び葉脈等の形状を十分に考慮し、基材1において天然葉と相似形となるように外形を定め、上記葉脈となる部分を除いた表皮部分の基材1を天然葉に近い緑色となるように調色されたインクを熱転写印刷、インクジェット印刷又はシルクスクリーン印刷等により、好ましくはシルクスクリーン印刷により着色する。葉脈部分は緑色に着色されないことになるので地色である黄色がそのままの状態に残ることになる。ただ緑色が葉脈部分に少し滲むことになり、天然葉により近い葉脈の色を表現することが可能となる。

10

【0015】

上記により、葉脈を除いた表裏面の表皮が緑色に着色される。これにより、天然葉に似た色の葉を表現することが可能となった。

【0016】

上記基材1に着色の後、葉の外形を形成するべく天然葉に似せて切断する。例えば、笹葉、柏の葉、桜の葉等に似せた疑似葉を形成する。

20

【0017】

上記切断した疑似葉の先端に糸を取着或いは紐付ピンで挟持し、吊り下げが可能となるように形成する。吊り下げ手段は、多くの疑似葉が吊り下げ可能となるように棒状のものに適宜間隔を有して多数吊り下げると効率が良い。

【0018】

上記吊り下げ状態とされた疑似葉をタンク内に貯留された乾燥後に透明となる液状化された熱硬化性樹脂、紫外線硬化樹脂等の自然乾燥する合成樹脂中にどぶ漬けし、その後吊り上げ保持する。

【0019】

吊り下げ保持の状態下で乾燥後、当該疑似葉を煮沸、オゾン洗浄又は紫外線照射等のいずれか或いは併用して殺菌処理を行なう。

30

【0020】

上記工程によって製造された疑似葉は、食品と接する等の様々な包装手段として使用することができる。

【0021】

上記実施例では疑似葉を初期の切断工程でその外形を形成する製造方法を説明したが、巾拡の基材に多くの疑似葉を印刷し、コーティング加工した後の最終工程において疑似葉となるように切断してもよいし、切断することなく巾拡の状態で多数の疑似葉が印刷、コーティングされた状態の包装材料として使用することもできる。